

令和4年度

北海道教育大学

附属函館幼稚園だより

NO. 3【号】



PTA 活動と共に

附属函館幼稚園園長 外崎紅馬

詩集『智恵子抄』で有名な彫刻家で詩人の高村光太郎の詩に「あどけない話」という一篇がある。詩のタイトルだけではどんな内容なのかピンとこないが、その一節はともよく知られている。

智恵子は東京に空が無いといふ、
ほんとの空が見たいといふ。
私は驚いて空を見る。

この詩の解釈は様々だが、郷里を離れ東京に住む智恵子が故郷の空を想って呟いた一言であることは間違いない。

私も学生時代、郷里を離れ東京で生活していた。ある日、講義に出席するため大学内の中庭を横切っていたとき、一緒に歩いていた友人が「今年もレンギョウの花がきれいに咲いたな」と言った・・・私は驚いて彼を見た。

まさか友人が中庭に咲いている花の名前を知っているとは思わなかったし、花を見てきれいと思うことにも驚いた。私は花の名前も、ましてやきれいと思ったことさえなかった。

さて、今年もPTAの皆様の手作業により、園の花壇に花を植えていただき、きれいに整えてもらった。とてもありがたいことであり感謝の気持ちでいっぱいである。学生時代のあの日から年月がたち、ようやく私も花を見て気持ちが癒されるぐらいには情緒が育まれている。幼児期ならぬ「中年期の終わりまでに育ててほしい姿」のひとつが培われていると思いたい。

花壇に植えられた一つひとつの花とPTAの方々の丁寧な作業を思いふと見上げた空は、心地よい陽気と初夏を感じさせる爽やかな風に包まれた、ほんとうの空であった。

